

供述（自白）証拠について：
（供述証拠の注意則）

渡部保夫『無罪の発見』より

2022年3月19日

コバヤシヒデヒコ

渡部保夫（1929—；北海道大学教授『無罪の発見』1992：勁草書房）
「自白の信用性の判断に関する一般的な注意則」（p.43-81）

1. 自白における信用性の減殺又は増強事由の現れ方の強弱と事案の特殊性
2. 自白と他の証拠との相互関係——自白の暗示的影響力について
3. 被告人の全供述史の再現のフォロー
4. 自白内容についての実験的トレース
5. 自白の動機・原因についての考察
6. 自白の信用性の判断と被告人の人物、性格に対する洞察、拘禁中の被疑者の異常心理に対する洞察
7. 自白と弁解供述との比較による自白の信用性判断の当否
8. 自白と補強証拠との総合性の判断

まとめ（渡部保夫以後）

以後、供述証拠の信用性の判断の系譜として、注意則が検討されていることが、門野博（1945—：法政大学教授）の『刑事裁判は生きている』（2021：日本評論社）に記述されている。

その中には、木谷・石井論争を含め、チャート法や、DNA鑑定等種々の方策が提案されていることが含まれている。